

2) 地域での取組

ここでは、皆さんがお住まいの地域において環境を守る上でどんな行動ができるのかを考えていきます。

- ① 美化・緑化活動 P88
- ② 資源の有効活用 P89
- ③ 生き物を守り育てる活動 . . . P89

1

美化・緑化活動

関係する項目 2-1)-④ 生物の多様性………P18

地域の美化活動

道路や公園、河川などの公共空間に空き缶や吸殻などのごみが散乱していると、景観の悪化だけではなく、そこに住む様々な生き物へ悪影響をもたらす恐れがあります。そこで、地域では自治会などによって自主的な美化活動が行われており、住民同士が協力しながら、快適な環境づくりが進められています。

福井市の市民憲章である「不死鳥のねがい」では、「すすんで くふうをこらし 清潔で美しいまちをつくりましょう」と掲げ、美しいまちづくりに向けた取組が進められています。「夏の福井市を美しくする運動」などによる市内一斉清掃や、「まち美化パートナー制度」などを通じて、地域における様々な団体等と連携した取組が行われています。



【清掃活動の様子】

＜取組例＞まち美化パートナー制度

福井市では、まちの美化やまちづくりに愛着を持ってもらうことを目的として、まち美化パートナー制度を実施しています。この制度は、市民と行政が協働で進める新しいまち美化活動、「アダプトプログラム※」を導入したもので、市民と市が互いの役割分担を定め、協力し合いながら、公共施設の美化活動を行うというものです。ぜひ、まちの美化活動に参加してみましよう。

※ アダプトプログラム…アダプトとは、英語で「養子縁組する」という意味で、アダプトプログラムは“里親制度”と訳されます。具体的にはボランティアとなる市民が里親となって公園、河川、道路、緑地などの公共施設を自らの養子のようにいつくしみ、世話をすることから名づけられました。

地域の緑化活動

まちを彩る美しい花など、緑が豊かな環境は、私たちの生活にやすらぎや憩いを与えるだけでなく、虫などの生き物の生息場所となります。地域では、公園や河川などで様々な緑化活動が進められています。



【公園の緑化活動】

2 資源の有効活用

関係する項目 2-1)-⑧ 鉱物資源……………P30
2-2)-⑦ ごみ問題……………P48

地域のリサイクル活動

○資源の回収運動

学校 PTA など様々な団体において、新聞紙や雑誌、紙パックを回収する集団資源回収や、ペットボトルのフタを集めてワクチンに換えるエコキャップ運動など、地域におけるリサイクルに向けた様々な活動が進められています。

○フリーマーケット

フリーマーケットなどの蚤の市に出店し、家庭に眠っている不要な生活用品を持ち寄り、必要とする人に安く譲ることで、資源の有効活用とごみの減量につなげることができます。

<取組例>福井市消費者まつり

福井市では、毎年フェニックスプラザで「福井市消費者まつり」が開催されており、一般市民が参加したフリーマーケットもあわせて行われています。



【消費者まつりにおけるフリーマーケット】

3 生き物を守り育てる活動

関係する項目 2-1)-④ 生物の多様性……………P18
2-1)-⑤ 森林の減少……………P22

地域の動植物を守り育てる活動

里地里山など、地域における独特の自然は、地域の人々の憩いの場として、あるいは美しい景観など、潤いのある地域環境づくりにおいて重要な位置づけとなっています。

このような身近な自然は、私たちの営みと深く関わって維持されてきた環境であり、食料生産、環境教育、水源涵養、生物多様性の保全などの重要な役割を担っていることから、この貴重な環境を次の世代に残すために、協力して守り育てていくことが重要です。

○里山の保全活動

森林は CO₂ の重要な吸収源だけでなく、水源涵養機能や、土砂崩れなどの災害から私たちを守ってくれるなど、私たちの生活に重要な役割を担っています。このような森林が持つ機能を維持するために、植樹活動や枝打ちなどの里山の整備活動が行われています。

また、登山道の整備や散策会の開催など、里山に親しみ、理解を深めるための取組も進められています。



【植樹活動】

○用水路等を利用したビオトープづくり

農地などを活用したビオトープの整備が行われ、昆虫や水生生物など、地域にすむ様々な生き物が息息する環境づくりが進められています。ビオトープは地域の生物多様性を保全するだけでなく、環境学習の場に活用することもできます。

⇒ビオトープについては P80 参照



【地域でのビオトープづくり】

ミニ講座 ホタルの再生

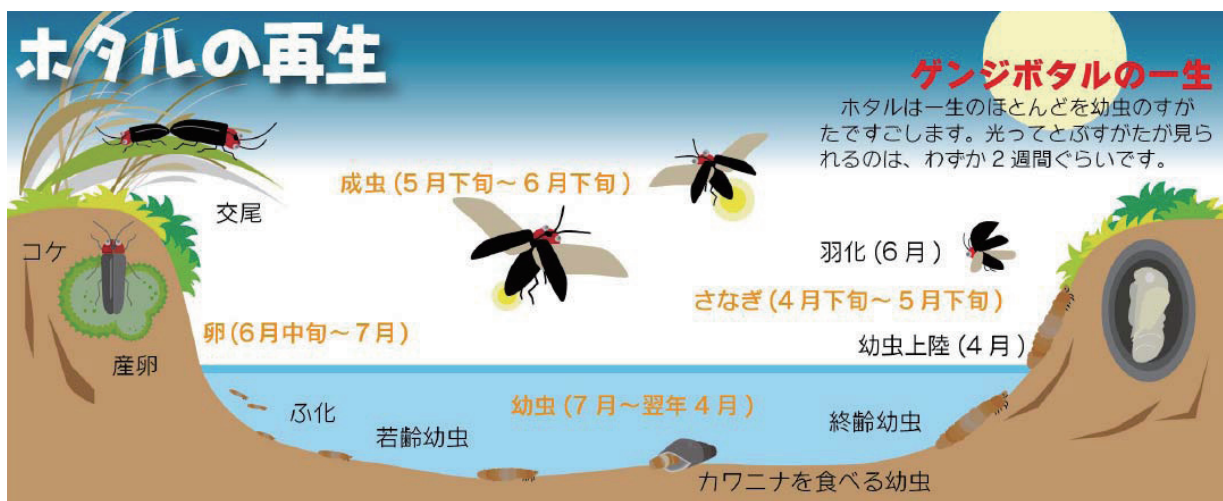
ホタルを再生する場合、ホタルの生態や生育環境などの条件を知り、ホタルが好む環境を整備する必要があります。そのためには、周辺住民の取組に対する理解と協力が欠かせません。

日本を代表するホタルにはゲンジボタルとヘイケボタルがあります。それぞれの生態は以下のとおりです。



【ゲンジボタルとヘイケボタルの特徴】

	ゲンジボタル	ヘイケボタル
体長	15～20 mm	約 10 mm
胸にある黒い線	十文字、または中央がややふくらむ	直線、または中央がやや細くなる
幼虫のえさ	カワニナ	モノアラガイ、タニシ、カワニナ
生息環境	河川、用水路、湧水などの流水域	水田、湿地、湿原、用水路などの止水域
分布	北海道を除く、本州から九州まで	北海道から九州まで
オスの発光間隔	約 4 秒（東日本型）、約 2 秒（西日本型）	0.5～1 秒
メスの発光間隔	不規則に光り、オスの光よりも弱い	



【ゲンジボタルの一生】

○ホタルが生息しやすい環境の条件

- ・ 洗剤などの生活排水や工場排水を川に流さない。
- ・ 川の岸辺を草やコケの生えやすい柔らかな土にする。
- ・ 川の側面には土のある空間をつくり、草やコケを生やす。
- ・ 川の周辺には林を再生し、街灯を少なくするなど暗い空間をつくる。
- ・ 水田の畦沿いに溝を掘り、常に水が溜まるようにする。
- ・ 幼虫が水田で生活する 7 月～翌年 4 月に農薬を使用しない。